

令和5年度実証実験サポート事業 課題提案票

テーマ5

センサー・カメラ等を活用した有害鳥獣の効率的な捕獲（袋井市）

1. 解決したい課題の内容

- ・袋井市における令和4年度の有害鳥獣捕獲頭数は、イノシシ 98 頭、カラス 90 羽、ハクビシン 2 頭となっており、年度により増減はあるが、ここ数年増加傾向にある。
- ・農業被害だけでなく、住家周辺への出没や道路を横断・通過する事例なども多く報告され、住民の不安やストレスとなるだけでなく、道路交通上の支障も生じている。
- ・イノシシなどによる農作物の被害は、面積で 54a、金額で 663 千円となっている。
（令和4年度 農業共済組合への被害報告、市電気柵等補助金の聞き取りより）
- ・農作物への被害は報告が上がるもの以外にも、農家からの未申告の被害や家庭菜園等への被害も相当数あり、潜在的にかなりの数になることが考えられる。
- ・捕獲のための箱わな設置については、地元（部農会・自治会）からの要望書をもとに設置の可否を判断したうえで、袋井市猟友会が設置しているが、設置後は地元と猟友会による管理（餌付け、定期的な見回り、出没報告など）が必要となる。
- ・箱わなは山間部に設置される場合が多いため、移動距離が長く管理に要する拘束時間もかかる傾向にあるほか、移動中の安全対策やイノシシ等に遭遇する危険性もあるなど、従事者の負担が大きいことが課題である。

2. 実現したい目標について

- ・箱わなにセンサーや高感度カメラ等を設置し、遠隔で設置状況を把握できるようにしたい。
- ・異常時に通報するセンサー装置を付加することにより、現場対応が必要と判断される場合のみ活動できるようにすることで、従事関係者の負担軽減を図りたい。

3. 必要とする技術について

以下を想定するが、これにこだわらない。

- ・センサー技術、高感度カメラ
- ・遠隔操作、連携ができるシステム

4. 想定する実証実験（内容・希望時期等）について

希望時期は特にないが、鳥獣が捕獲される数が多いのは7月～11月である。

以下を想定するが、これにこだわらない。

- ・技術を入れ込んだ箱わなを現場に設置、検証

5. 課題に関連する事業のホームページ URL

- ・袋井市「イノシシ等の鳥獣被害を防ぐために」

<https://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/soshiki/15/1/ringyo/1422535802654.html>